

## ORCID : 神田外語大学での考え方と取り組み

著者	吉野 知義
雑誌名	大学の図書館
巻	41
号	3
ページ	35-37
発行年	2022-03-31
URL	<a href="http://id.nii.ac.jp/1092/00001934/">http://id.nii.ac.jp/1092/00001934/</a>

## ORCID：神田外語大学での考え方と取り組み

吉野 知義

### 1. はじめに

神田外語大学（以下、本学）では、世界的な研究者IDであるORCIDの本格的な運用を目指して、大学としてORCIDのメンバーシップに参加し、国内のコンソーシアムにも加盟している。学生数約4,000人の中規模人文系の大学である本学が、ORCIDをどのように捉えて取り組んでいるのかを紹介する。

### 2. ORCIDとは

ORCIDとは”Open Researcher and Contributor ID”の略称で、ORCID iDとも呼ばれる世界中の研究者が無償で利用できる個人を識別するための数字16桁のIDである。2012年10月に研究者識別子であるORCIDを付与するサービスが開始されて以降、世界中の学術コミュニティで支持されており、2022年1月時点でORCID iDを持つ登録者は1,300万を超えている。

また、ORCIDは、ORCID iDを管理・運営する国際的な非営利組織「ORCID Inc.」の名称でもある。ORCID Inc.は2010年に米国で設立された非営利団体で、研究者、研究機関、大学、出版社、学会、研究助成団体、学術情報関連企業など、学術研究に関わるさまざまな関係者によって構成され、世界中の研究者に一意的な識別子を与えることを目指している。

研究者個人としてのORCIDの利用はすべて無料で、ORCIDサイトで登録することで固有のORCID iDを取得することができる。登録すると、サイト上にORCIDレコードと呼ばれるユーザ個別のマイ・ページが作成されて基本的なプロフィールと共に所属機関などの経歴や論文・著作などの研究業績、さらには取得した研究助成金の情報などを登録し

て公開することができる。筆者も登録しており、本稿の末尾に記載したURLでORCID iDとORCIDレコードを確認できる。

### 3. ORCIDメンバーシップ組織とコンソーシアムについて

大学や研究機関などはメンバーシップ組織として参加することができる。非営利団体であるORCIDの運営は、メンバーシップ組織がORCIDメンバーシップと呼ばれるサブスクリプション料金を支払うことで支えられている。2022年1月時点でメンバーシップ組織は1,200を超えている。

さらに、国や地域ごとにコンソーシアムが形成されており、2022年1月時点で24のコンソーシアムがある。日本では、大学ICT推進協議会（AXIES）を事務局としたORCID日本コンソーシアムがあり、会員間の相互連携・協働を通じて日本国内におけるORCIDの普及と発展に寄与することを目的としている。現在、20の会員組織で構成され、本学もそのひとつである。

### 4. ORCIDメンバーシップ・コンソーシアムへの加盟について

本学は2020年度からORCIDメンバーシップ組織となり、ORCID日本コンソーシアムにも加盟した。経緯としては、当時のIR (Institutional Research) 担当教員が、参加していた学会や海外出版社のセミナーなどからORCIDに関する情報に触れる機会があり、本学で活用する可能性を感じて検討した結果、本学の研究センターを窓口として加盟することとなった。この背景には、世界的な研究者IDとしてのORCIDの意義を、技術的な側面を含めて適切に理解し、グローバルな標準の中でORCIDの活動に貢献したいという思いがあった。研究者個人でのORCIDの利用は無料であるが、そのサービスに「タダ乗り」するのではなく、研究者を擁する教育・

研究機関のひとつとして、世界的な研究者コミュニティに責任を持って参画するということである。

具体的な活用として見据えたのは、前述のように、本学に所属する研究者のORCIDレコードに対して本学をSource（ソース）としたEmployment（雇用）情報を書き込むことである。本学では実践的な英語教育のために、第二言語習得の学位を持つネイティブ教員を世界中から募集し、常時約70名が在籍しELI (English Language Institute) を組織している。ELIの教員は、本学で最大6年間の契約で勤務した後、日本国内や世界中の教育・研究機関で引き続き英語教育などの場で活躍することになる。前述のように本学が信頼される組織として、本学に所属する研究者に在籍実績を担保することで、研究者と本学双方のプレゼンスの向上につながり、また研究者の活動を継続的に確認したりコンタクトをとることもできる。

### 5. ORCIDメンバーシップ組織ができること

ORCIDに登録できる情報は、Employment（雇用）、Education and qualifications（教育と資格）、Funding（ファンディング）、Invited positions and distinctions（招待されたポジションと賞）、Works（仕事）などがある。（注：日本語訳はORCIDサイトの日本語表示による）これらの情報は、ORCID iDを持つ研究者自身が登録することができ、その場合は情報のSource（ソース）として研究者の氏名が表示される。一方、研究者自身がTrusted organizations（信頼される組織）として設定した組織は、その研究者のORCIDレコードに対して情報を書き込んだり更新することができるようになる。その結果、登録された情報には信頼される組織の名称がSource（ソース）として表示され、その情報の確実性を担保することができる仕組みとなっている。信頼される組織の例としては、学術雑誌の出版

社やデータベースベンダー、研究支援団体などがある。

ORCIDメンバーシップ組織になると信頼される組織となることができる。つまり、本学に所属する研究者のORCIDレコードのEmployment（雇用）の項目のSource（ソース）を本学の名称として登録することができるようになる。言わば公式の所属履歴として発行できることになり、これが本学として最も重要と考えている部分である。なお、この機能はORCIDのAPIを利用した外部のシステム、またはORCIDが提供しているAffiliation Manager機能で実現できる。

## 6. 図書館の関わり方

2020年4月に事務局組織の大きな改変が行われ、それまで別々の部であった図書館、研究支援、情報システムの3つの課が学術・研究支援部としてまとめられた。そして、研究業績管理の業務が図書館に移管されたのと合わせてORCIDの所管も当初の研究センターから図書館となり、運用と教員への展開などを担当することとなった。これにより、かねてから図書館で担当してきた機関リポジトリとともに、学内研究者の研究業績や学術情報流通に関して一貫した管理と運用ができるようになった。

残念ながら、2020年度は新型コロナウイルスの影響で実質的な活動は行えず、2021年度になってから学内研究者情報の収集と整理などを進めている状況である。2020年度からは学内での展開を開始し、当初はELIに所属する教員から、その後学部教員等にも広められるように計画している。

## 7. さいごに

本学は研究を中心とした大学ではなく、また論文などの研究業績の発表が多い医学や自然科学の学問分野でもなく、ORCID日本コンソーシアムのメンバーの中でも珍しい存在

と認識している。しかし、研究活動はどの大学でも行われており、その研究成果は学術情報の電子化によって世界中に流通するようになっている。そのような状況で大学の研究活動を支援し、研究者や研究成果を広められるようになりたいと考えている。ぜひORCIDの理解と一緒に活用していきたいと願い、第一歩としてContributor（貢献者）としてでも自身のORCID IDを取得してみることをお勧めする。

（よしの・ともよし／

神田外語大学附属図書館)

yoshino-to@kanda.kuis.ac.jp

<https://orcid.org/0000-0001-8697-8779>